



すくすく通信

2024年2月号
子育て世代包括支援センター
子育て支援室



すくすくパオーンルームでは、言葉の発達についての相談がよく寄せられます。子どもの発達には個人差があるため、目安とされている年齢に言葉が出ないことが、必ずしも発達の遅れを意味するわけではありません。お子さんによって興味は様々ですが、身近な大人の真似をしながら沢山の事を学びます。「自分も同じ様に言葉を使いたい!」と思えるようなコミュニケーションの糸口を作ることが大切です。今回は、その関わり方をお伝えします。

～お子さんに合わせた言葉を引き出す大人の関わり方例～

「アーウー」「ブー」…喉を鳴らしたり唇を動かしたり発声練習期

真似したくなる様に、目を見て、高めのトーンで抑揚をつけゆっくり、いっぱい話かける。

例えば

- 肌に触れながら声をかける。
- お子さんが発した音「あーうー」「ぶー」を真似する。
- 実況する。「オムツ替えてきれいになったね。」



「…」…言葉の理解はしているけれど、まだ話さないインプット期

楽しい遊びや生活の中で必要な言葉を吸収します。簡単すぎるくらいの言葉を使いましょう。

例えば

- お子さんの好きな絵本の絵を指差ししながら言葉で伝える。
- 気持ちを代弁する。「一緒に遊びたいね」
- 遊びに合った効果音をつけてあげる。「高い高い」「トントン」



「ママ」「パパ」…単語が出てきたアウトプット期以降

先回りして話さない。言い間違いを指摘しない。話す楽しさを味あわせてあげましょう。

例えば

- 話そうとする時は、その子のスピードで話出せるようにじっくり待ちましょう。
- 食べ終わった後に「いただきます。」と間違えて言ったら…
「よく言えたね。『ごちそうさま』」と、一旦子どもの気持ちを受け止めてから、正しい言葉で復唱します。



子育て支援室職員からの声掛けもお子さんの刺激になります。



言葉の発達について心配なことがありましたら、一人で悩まず子育て支援室職員にお声掛けください。お子さんに合った声掛け方法など一緒に考えていきましょう。子育て支援室(すくすくパオーンルーム)のご利用お待ちしております。